

北海道新幹線 札幌車両基地の建築工事状況について

○札幌車両基地※の建築工事は、令和7年10月1日夜間作業より高架橋上の鉄骨建方工事に着手(札幌市中央区北5条東2丁目付近)しました。これにより、札幌車両基地の建築工事が始まりました。今後、鉄骨建方工事に続き外壁および屋根工事を進めてまいります。

※札幌車両基地は市街地に位置することから、壁面のデザイン等については周囲の景観にも十分配慮する必要があるため、機構では令和6年度に「札幌車両基地壁面デザイン検討会」(注)やオープンハウスを開催し、有識者や市民の方々からご意見をいただいた上で壁面デザインを決定し、本年5月に公表しました。

(注) 機構 札幌車両基地壁面デザイン検討会ホームページ <https://www.jrtt.go.jp/project/sappororollingstockdepotwalldesign.html>



鉄骨建方工事の様子

最初に柱部材鉄骨の建て込みを90tクレーンを使用して行いました。

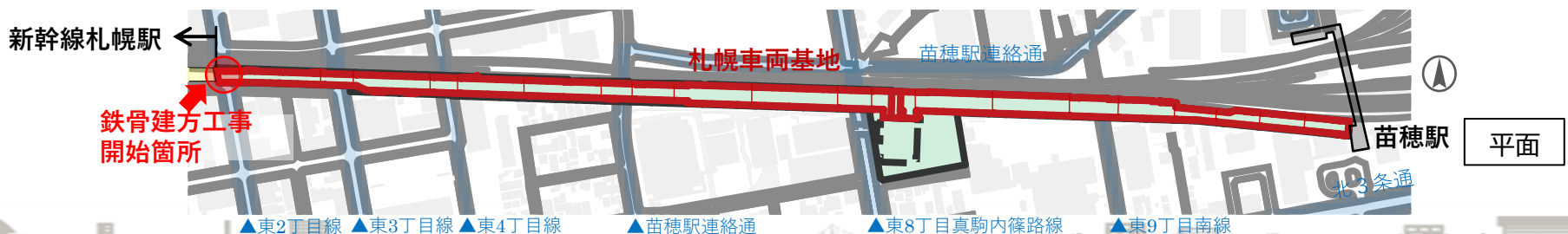
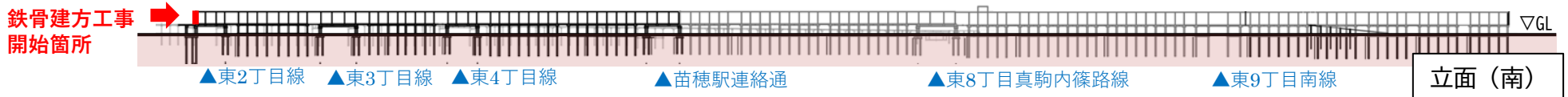


初日工事完了



完成イメージ(東2丁目線南側道路交差点部)

※画像はイメージのため実際と異なる場合があります



内浦トンネル（静狩）の掘削完了（令和7年9月2日）

- 長万部町、黒松内町、蘭越町を繋ぐ内浦トンネル(全長15,570m)は、3工区(静狩工区、東川工区、幌内工区)に分割して施工。
- 静狩工区は、平成31年1月に札幌方に向けて掘削を開始し、令和7年9月2日に掘削が完了。
- 引き続きトンネルを保護するコンクリートや車両が走行する路盤コンクリートの施工を進める予定。



新函館北斗方

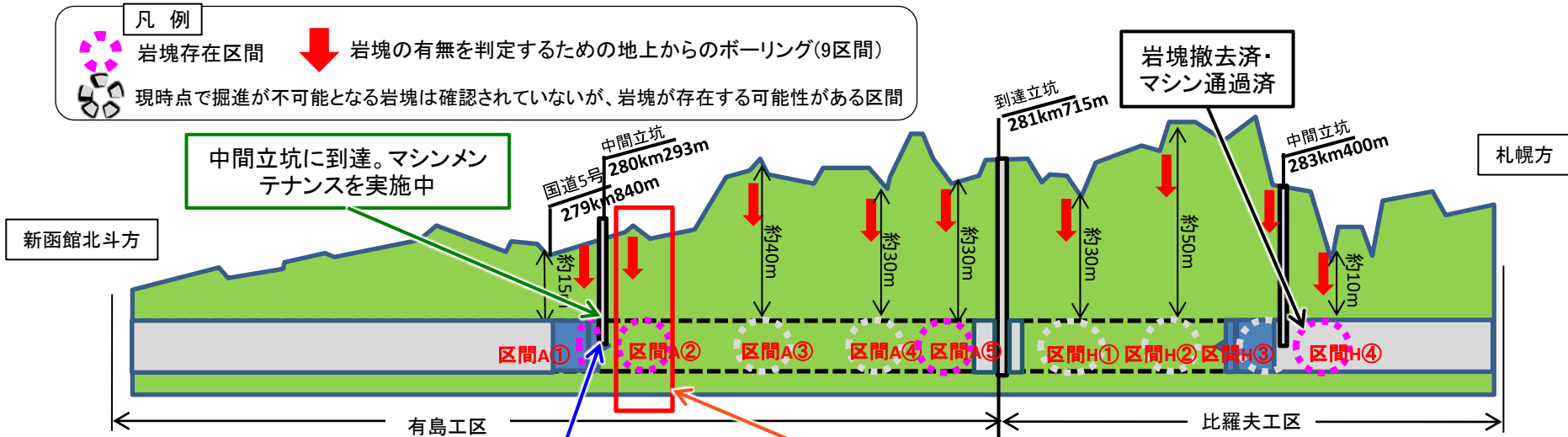
【国土地理院地図を基に作成】



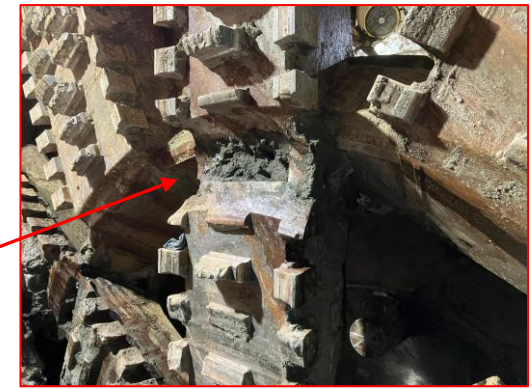
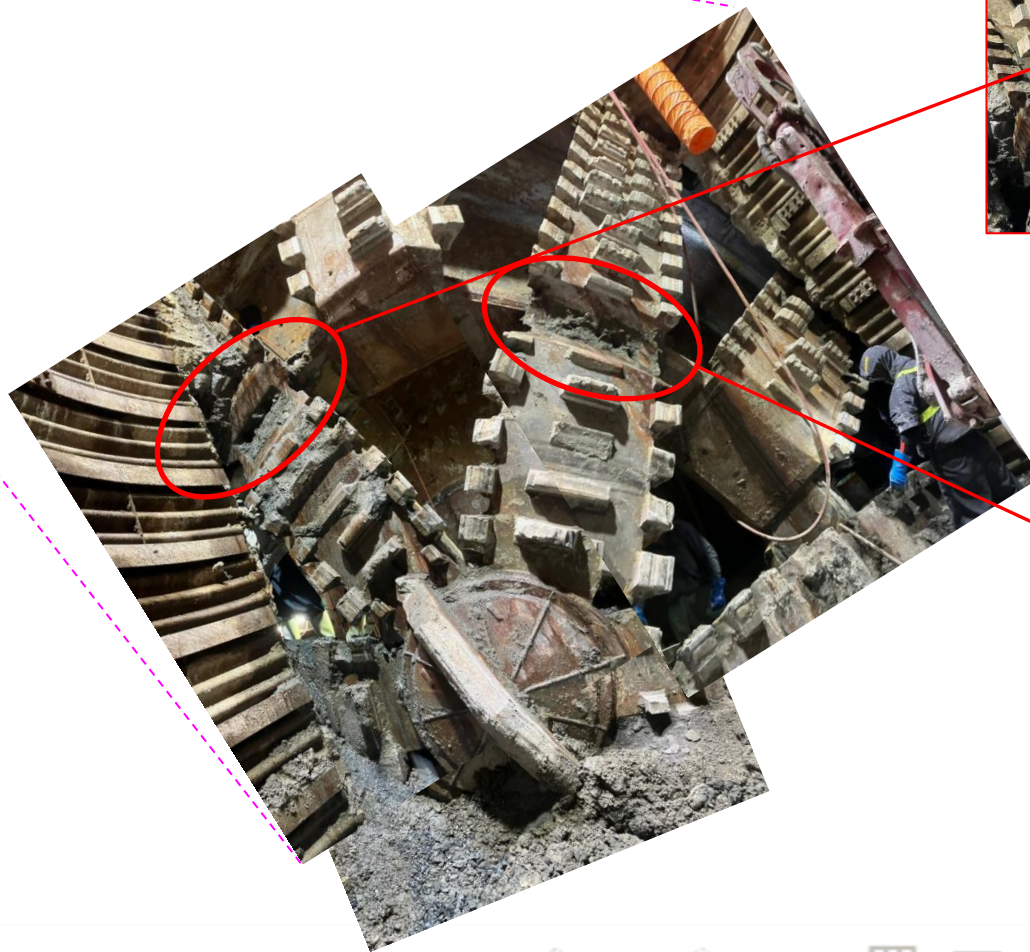
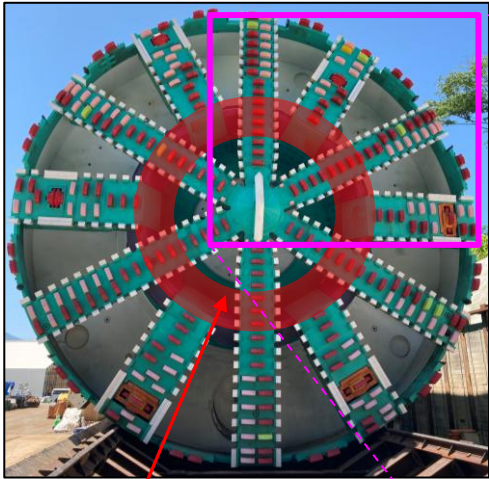
掘削完了地点の状況

岩塊撤去の進捗状況(羊蹄トンネル)

- 令和4年度に実施した弾性波探査の結果、9箇所掘進に影響する可能性のある岩塊の存在を確認。(図中の区間A①～H④)
- 区間A①では、掘進停止の原因となった岩塊を撤去し、シールドマシンが7/1中間立坑に到達。マシンメンテナンス実施中。ビット交換準備中。
- 令和4～5年度の地上からのボーリング調査の結果、区間A②、A⑤、H④において、シールドマシンによる掘進が停止するおそれがある岩塊の存在を確認。このうち、区間A②の岩塊は、令和6年5月より地上から撤去中(令和7年6月より撤去範囲を拡大しており、令和7年9月30日時点で170本の撤去完了)、区間A⑤の岩塊は、今後到達立坑から撤去予定、区間H④の岩塊は地上から撤去済。区間H③は岩塊無し。
- 残りの区間では、地上からのボーリング調査の結果では、シールドマシンによる掘進が不可能となる岩塊は未確認。



- 令和7年7月1日に中間立坑に到達し、現在、ビット交換作業に向けた点検作業を実施中。
- 点検作業を進める中で、カッタースポークの損傷を確認。ビット交換作業に加え、カッタースポークの補修が必要となり、再発進時期が来年夏頃となる見込み。






カッタースポーク損傷範囲

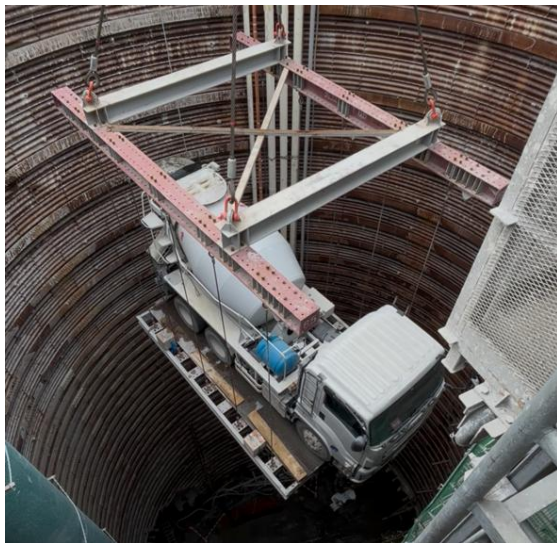
損傷範囲

羊蹄トンネル(有島)工区の岩塊撤去状況【区間A⑤】

○岩塊が存在すると想定している区間A⑤における岩塊撤去について、令和7年2月より到達立坑よりNATM掘削を開始。
 ○NATM掘削が所定の位置に到達したため、今後掘削する区間に岩塊が存在するか確認するための水平ボーリングを実施中。

凡例

-  岩塊存在区間
-  岩塊の有無を判定するための地上からのボーリング(9区間)
-  現時点で掘進が不可能となる岩塊は確認されていないが、岩塊が存在する可能性がある区間



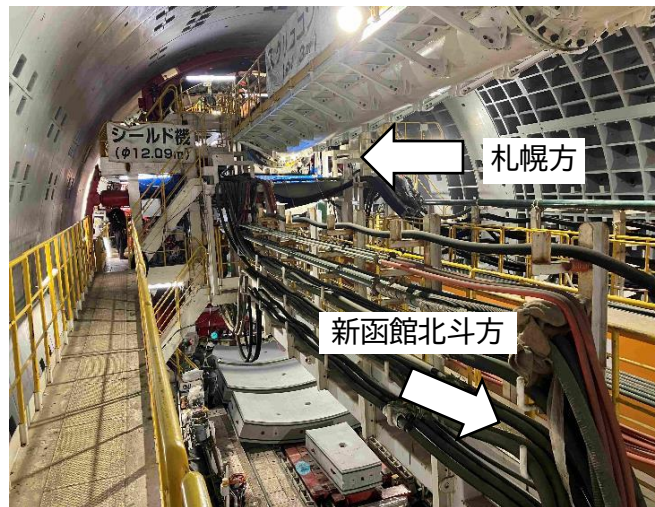
トラックミキサー車入坑状況(到達立坑部(地上部))



水平ボーリング実施状況

シールドトンネルの進捗状況(札幌トンネル(札幌))

- 令和6年3月より札幌方の掘進を実施。令和7年10月1日時点で約980mを掘進完了。
- 令和7年5月中旬から後方設備の段取り替えを行い、8月より掘進再開し、現在、JR函館本線直下を掘進中。
- 今後も、JR函館本線をはじめとした重要構造物に近接しながら掘進を予定。



札幌方掘進の様子

